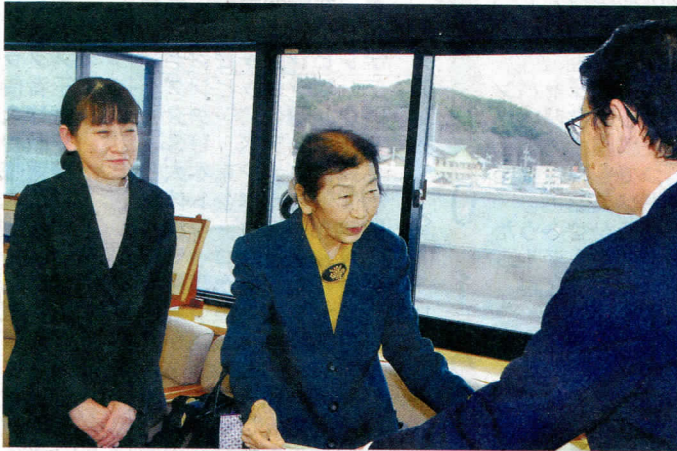


「守矢文書」を寄贈 78代当主に感謝状

茅野市 史料集作成など幅広く活用へ

茅野市は23日、諏訪神社（諏訪大社）上社の神長官と呼ばれる役職を務めた守矢家（同市高部）に伝わる古文書「守矢文書」などを、同市教育委員会に寄贈した第78代当主守矢早苗さん（77）＝東京都＝に感謝状を贈った。市は今後、文書の史料集作成など、幅広く活用していきたい考えた。



「守矢文書」を寄贈し今井敦市長から感謝状が贈られる守矢早苗さん（左）23日、茅野市役所

（今井則幸）

寄贈は鎌倉時代から昭和初期の県宝や市指定文化財など守矢文書2139点と、神事を取り仕切っていた神長官が現人神とされる大祝の即位の際に使ったとされる化粧道具や、武田信玄が神長官に贈った「十角重箱」びょうぶなど68点。

市教委文化財課によると、中世の史料が大量（約1500点）にまとまってあるのは珍しく、信玄の書状や、ほとんど残っていない信濃国内の武士の書状など、江戸時代の貴重な史料が多い。

上社の中心的な位置にあった神長官が時代の変革を乗り越え、後世まで続いたことで長年、史料が散逸されなかつ

た、とみられるという。

これまで史料は守矢家から寄託されていたが、史料を生かしてもらえればと、今年1月18日付で守矢さんから寄贈を受け、所有権が移った。

市役所で感謝状を贈った今井敦市長は「1級の史料の寄贈ありがたい。（守矢家が

文書を）守ってきた意思を引き継ぎ、しっかりと保存、後世に伝えていきたい」と述べた。

山田利幸教育長は（文書を保管、展示している神長官守矢）史料館を歴史を学び子どもや孫に伝える「学習センター」に位置付けていければ」と語った。

同課によると、今後、文書の史料集を作るほか、守矢さんを招いたギャラリートーク、講演会など関連イベントも予定している。

守矢さんは「中世の史料が多く、茅野市や諏訪地域の歴史を知ってもらおう素材になれば」とし、「勉強の時に文書を大いに利用してもらえれば」とも話した。めいの石附明子さん（54）＝東京都＝も同席した。

同課によると、今後、文書の史料集を作るほか、守矢さんを招いたギャラリートーク、講演会など関連イベントも予定している。

神長官守矢史料館 来場者が過去最高



「守矢文書」が常設展示されている茅野市神長官守矢史料館＝茅野市宮川高部

守矢文書を保管、公開する市神長官守矢史料館は、守矢家から寄託された文書を保管、展示して1991年3月に開館した。設計を地元同市高部出身の建築史家、藤森照信さんが手掛けたユニークな形をした建物だ。

同館によると、来館者は諏訪地域に古くから伝わる「諏訪信仰」や「藤森建築」を求める人たちが少なくないと思われ、中でも来館者は御柱年に多いという。

御柱祭があった今年度はコロナ下にもかかわらず、今月22日までに1万1845人が来場し過去最高を記録。これまで最高だった前回御柱祭の2016年度の1万1493人を既に上回り更新している。

同館では守矢文書を常設展示しているほか、年2回ほど企画展を開催。話題性のある「守矢文書」を展示、公開している。